

先生（慶應義塾大学）がiPS細胞を使用した神経疾患の最新の研究成果について御講演されました。また、セッション4では、江良沢実先生（熊本大学）の座長の下、小野寺雅史先生（国立成育医療センター）、滝田順子先生（京都大学）が小児難病における遺伝子治療法、小児血液がんの最新の知見について御講演されました。最後に、江良沢実先生（熊本大学）が閉会のご挨拶をされ、終了しました。

最後になりましたが、本シンポジウム開催に対して多大なご支援をくださいました肥後医育振興会の皆様方に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 第百二十二回日本外科学会 会定期学術集会

熊本大学大学院消化器外科学 教授

馬場 秀夫

この度、第百二十二回日本外科学会定期学術集会を二〇二二年四月十四日から十六日の三日間、熊本城ホールにて開催させていただきました。二〇二二年は丁度、熊本大学の外科学講座が開講して百年の記念の年に当たりましたが、熊本大学の外科学講座として、日本外科学会の定期学術集会を開催さ

せていただくのは、今回が初めてでした。本学術集会の開催にあたりましては、格別の御支援を賜りまして誠にありがとうございました。

今回は、新型コロナウイルスの急速な感染拡大を鑑みて、上級セッション及び学生・研修医セッションを現地またはオンラインでの参加とし、一般セッションはオンライン上での発表とするハイブリッド形式にて開催いたしました。お陰様をもちまして、延べ三千人を超える会員に來熊いただき、最終的



な参加人数は一万七千名以上となり、盛会裡に終えることができました。

本学術集会のテーマ「外科学の未来を拓く」に沿った特別企画として、(1) AIが拓く未来の医療、(2)ロボット手術と遠隔医療の未来、(3)ゲノム医療は未来の外科医療をどう変えるか？(4)臓器再生・置換の未来、(5)未来を拓く手術手技の伝承、(6)未来へ向けた外科教室の創造、(7)未来を担う研究者からの発信、(8)未来へ羽ばたくUnder40の外科医たち、(9)世界で活躍する外科医からのメッセージ、(10)ムーンショットが拓く二〇五〇年の医療とは？など、未来を見据えたセッションを企画いたしました。ハイブリッド開催ならではの現地での臨場感と、WEB参加による海外など遠方からの参加とが融合した企画となりました。

特別講演として、臓器再生の研究者、手術支援ロボットの開発企業、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の宇宙飛行士、トップアスリートなど、外科分野だけでなく異業種でのトップランナーによる講演を賜りました。外科学を含めた日本の未来について考えるよい機会となりました。

末筆ながら、本学術集会の開催にご支援いただきました肥後医育振興会の皆様改めて厚く御礼申し上げます。

今後ともご支援のほど、宜しくお願いいたします。

## 第六十二回日本先天代謝 異常症学会学術集会開催

熊本大学病院小児科 講師

城戸 淳

熊本大学大学院生命科学学術部

小児科学講座 教授

中村 公俊

第六十三回日本先天代謝異常学会総会、第十八回アジア先天代謝異常症シンポジウムを、二〇二二年（令和四年）十一月二十四日（木）～二十六日（土）に、熊本市の熊本城ホールで開催いたしました。

本学術集会は、先天代謝異常症に分類される疾患を中心に議論している専門性の高い学術集会であり、毎年開催されています。この学術集会では、極めて珍しい先天代謝異常症の症例報告をはじめ、多岐にわたる先天代謝異常症の新しい治療法や新しい知見、そして現在の診断法、治療法および新生児スクリーニングにおける現状や改善点について研究および臨床の両レベルで活発に議論される場となっています。

当初、私達は、二〇二〇年十一月に開催することで準備を進めていました